

社会福祉法人狛江市社会福祉協議会  
令和4年度第1回地域福祉活動計画策定委員会会議録

**1 日時**

令和5年2月13日（月）10時00分～11時20分

**2 開催方法**

オンライン（ZOOM）による開催

**3 出席者（敬称略、名簿順）**

委員：中村 美安子、高橋 順子、市川 衛、六笠 良一、安藤 万寿代、  
梶川 朋、佐藤 英一、田中 麗子、浅見 秀雄、門脇 由美子、  
佐渡 一宏、高橋 治、森 純一

事務局：小楠 寿和、大山 寛人、大谷 美樹、大塚 隆人、石井 康一  
鈴木 誠人

**4 欠席者（敬称略、名簿順）**

委員：なし

**5 議題**

- (1) 委員紹介
- (2) 委員長及び副委員長の選出
- (3) 次期地域福祉活動計画策定の進め方について
- (4) 次期地域福祉活動計画の調査の進め方について
- (5) 現地域福祉活動計画の事業評価（進捗状況の報告と評価の確定等）について
- (6) 次期地域福祉活動計画骨子案の検討
- (7) その他

－ 配付資料 －

- 資料1 地域福祉活動計画策定委員会委員名簿  
資料2 地域福祉活動計画策定委員会設置要綱  
資料3－1 地域福祉活動計画等の策定スケジュール（概要）  
資料3－2 事業のあり方検討委員会 作業部会の検討概要  
資料4 狛江市市民意識調査の概要（令和5年1月実施）  
資料5 第3次地域福祉活動計画 進捗状況報告書（案）  
資料6 第4次地域福祉活動計画骨子（案）

## 6 会議の結果（要旨）

### （1）委員紹介

<出席委員の自己紹介>

### （2）委員長及び副委員長の選出

（事務局）

委員長の選出は、資料2に基づき、委員の互選によりますが、いかがいたしましょうか。

（委員）

現在、事業のあり方委員会で検討が進んでいますが、委員長をされている市川委員に委員長をお願いしてはどうでしょうか。

（事務局）

市川委員に委員長を、とのご推薦がありました、いかがでしょうか。

（委員）

賛成。

（事務局）

賛成の声があがりましたが、他にご意見等がありますか。

（委員）

<意見等なし>

（事務局）

他にご意見等はありませんでしたので、市川委員に委員長をお願いします。これからの議事進行は市川委員長をお願いします。

（委員長）

副委員長の選出ですが、委員の互選となります。いかがでしょうか。

（委員）

以前の策定委員会で副委員長であった中村委員を推薦します。

（委員長）

他にご意見等がありますか。

(委員)

<意見等なし>

(委員長)

特になければ中村委員に副委員長をお願いします。

(3) 次期地域福祉活動計画策定の進め方について

(委員長)

次期地域福祉活動計画策定の進め方について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

<資料3-1「地域福祉活動計画等の策定スケジュール(概要)」及び資料3-2「事業のあり方検討委員会 作業部会の検討概要」の説明>

(委員長)

これについて、ご質問やご意見はありますか。

(副委員長)

事業のあり方検討委員会と地域福祉活動計画策定委員会の関係ですが、より具体的に検討する母体が事業のあり方検討委員会と理解すればいいのでしょうか。地域福祉活動計画策定委員会の開催回数を見ると、委員会だけで細かいことまで検討するのは難しいのではないのでしょうか。

(事務局)

事業のあり方検討委員会は、新規事業に関することを中心に情報収集や検討を行っています。また、近年予定されている施策を社協でどのようにするかについて検討を進めており、3月に答申の予定です。新規事業は答申内容を基に引き続き策定委員会で検討を継続します。策定委員会の回数のご指摘についてですが、進捗状況をみながら、場合によっては第2回と第3回の間には会議を開催する可能性もあります。方針が出ましたら、内部で検討し、策定委員会に戻していく流れを考えています。

(副委員長)

あり方検討委員会で重点事業の大きな流れを議論しながら、具体的な原案は事務局で作業を進めるというやり取りの中で進めていくという理解でよろしい

でしょうか。

(事務局)

そのような進め方を想定しています。

(委員長)

他に、ご質問やご意見はありますか。

(委員)

8月に住民懇談会が予定されていますが、市の計画策定は11月にパブリックコメントを予定しています。住民懇談会について、地域づくりの部分では、市民ニーズの把握という点では共通なので、社協と一緒に開催できればと考えています。

(事務局)

福祉政策課と調整し、5月の策定委員会で具体的に報告できるように考えていきます。

(委員)

6月に重点・新規の検討で社協の地域福祉活動計画で出たものを、うまく連携して市の地域福祉計画に位置付け、ご理解いただけたらと思います。

(委員長)

他にご意見やご質問はありますか。なければ、ただ今の件について承認いただけるようであれば挙手をお願いします。

(委員)

<挙手全員>

(委員長)

挙手全員で承認されました

(4) 次期地域福祉活動計画の調査の進め方について

(委員長)

次期地域福祉活動計画の調査の進め方について、説明をお願いします。

(ナレッジ・マネジメント・ケア研究所)

<資料4「狛江市市民意識調査の概要（令和5年1月実施）」の説明>

（委員長）

ご質問やご意見はありますか。

（副委員長）

市の調査の説明がありましたが、地域福祉活動計画でもこの調査結果を活用していくという位置づけでしょうか。地域福祉活動計画のベースとなる調査、実態把握はどこになりますか。

（事務局）

市の調査結果を参考にすることを考えています。狛江市はLoGoフォームで大規模な調査をされるので、調査結果を参考にさせていただき、不足するところは住民懇談会で補足的にテーマを決めて調査していくことを考えています。

（副委員長）

地域福祉活動計画が受け止めるものは、既存の制度では対応できていない狭間のテーマや、今上手くいってないところに市民の力を得ながら、皆でわが街の制度の狭間を受け止めて行こう、ということであり、重要なテーマです。例えば、市の基盤整備によりCSWが配置され、いろいろな課題が明らかになっています。既にある地域福祉活動とか、専門職の関わりでうまく対応できていない制度の狭間として見えてきているものを整理することは有効だと思います。量の調査は有効なので活用することは大事ですが、限界としては、ある程度あたりがついたものを数で把握する以上の新しい発見はなかなか量の調査ではできません。数は少なくても、こういう問題があるな、というものを、CSWの実践から見えている狛江の課題や、住民の力を必要とする部分はどこなのか、社協が活躍しなければならないことはどこなのか、ということ整理することはよいと思うので、制度の狭間を把握するという日頃の事業の中からのリサーチを、調査と位置付けていいのではないのでしょうか。検討してください。

（委員）

平成30年度に始まったCSWの活動から、ある程度、個別支援、地域支援を行っている中でケースが積みあがっています。日常生活圏域で住民が集まって地域課題を検討する福祉のまちづくり委員会での情報をある程度整理したうえで、課題等も浮かびあがってくると思います。来年度から、地域アセスメントも始めると伺っているので、その結果もふまえ、地域福祉活動計画の中に反映していただけたらと考えています。

(委員長)

他にご意見やご質問はありますか。なければ、ただ今の件について承認いただけるようであれば挙手をお願いします。

(委員)

<挙手全員>

(委員長)

挙手全員で承認されました

(5) 現地域福祉活動計画の事業評価（進捗状況の報告と評価の確定等）について

(委員長)

現地域福祉活動計画の事業評価（進捗状況の報告と評価の確定等）について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

<資料5「第3次地域福祉活動計画 進捗状況報告書（案）」の説明>

(委員長)

事務局から昨年度の地域福祉活動計画のレビューが行われましたが、ご意見やご質問はありますか。

(委員)

資料を拝見する中で、コロナ禍でもできたことは継続していく必要があると思います。8ページの施設等での体験が厳しい状況がありますが、外国籍の子どもの家庭への支援は他地域でも重要になってくる中で、日本語支援は非常によい活動であったと思います。CSWが個別支援で学習支援に関わっていると聞いています。コロナ禍で出てきた新しい課題に向き合っていることは重要であると考えています。27ページの中間的就労の場がなかなか確保はできないことは、令和3年度という時期を考えるとそうなのですが、大事なことはコロナが開けた後に元々取り組もうとしていたことを再びスタートしていくということが重要かと思っています。CSWの取り組みの中で市内の就労継続の障がい者の方が高齢者の庭の手伝いをするという芽は出ていると思うので、引き続き今できないことを再開していくことが重要だと思っています。9ページ、20ページ、21ページのCSW、福祉カレッジ、福祉のまちづくり委員会の重点事業ですが、福祉カレッジはコロナ禍でも着実に開催しています。その後の活動に結びつい

ていることも出ていますし、評価はいずれも「B」になっていますので、重点事業の取組みは順調に進んでいると感じました。

(委員長)

他にご意見やご質問はありますか。なければ、ただ今の内容について承認いただけるようであれば挙手をお願いします。

(委員)

<過半数が挙手>

(委員長)

挙手過半数と認めますので、議題5については承認されました。

(6) 次期地域福祉活動計画骨子案の検討

(委員長)

次期地域福祉活動計画骨子案の検討について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

<資料6「第4次地域福祉活動計画骨子(案)」の説明>

(委員長)

ご質問やご意見はありますか。

(委員)

現地域福祉活動計画の重点事業は3事業で、社協がこれからの新しい地域福祉にどう取り組んでいくかの種まきの時期だったと思います。3つの事業全てが無事に始まり、CSWが3エリアで始まり、福祉カレッジは5期生の輩出まで終えて、福祉のまちづくり委員会は今年度3エリアで始まったということになるかと思っています。重点事業について、あり方検討委員会で検討の結果を追加するという説明でしたが、現地域福祉活動計画で種を蒔いていただいた3つを、更に芽吹かせて育てていくのかを盛り込んでいただけたらと思います。私は5年前に住民説明会に参加しました。福祉カレッジが始まる情報を聞き、面白そうだと参加したことをきっかけに発掘していただき、いまの地域活動につながっています。何か新しいことが始まりそうだとニューカマーの参入する契機になると思います。種を蒔き続け、福祉カレッジも続いていく、福祉のまちづくり委員会も始まったばかりで、ぜひそこに多くの市民の方に関わってもらい、伝わってい

くと良いと思います。今回、今期の重点事業については社協が独自にされていることが挙げられていると思いますが、地域の、あるいは市民のネットワークづくりは社協の大事な役割だと思います。先週も、シニアの生活支援ネットワークとして、介護保険では対応しきれない高齢者の狭間のニーズを、民間事業者、市民活動団体含めて、どう支えてくのか、ということを経験交換するネットワークを昨年度から始め、第2回を行いました。他にも、市民活動支援センターの呼びかけで子どもの居場所づくりをしている児童館、市民活動団体、行政職員なども集まり、不登校、未就園の子どもを連れた保護者の集まり、制度の狭間にいる色々な方を地域で支えて居場所作っていくかを考えるネットワークも今年度始まったばかりです。そうした実績もすでにありますし、社協を起点に、地域のつながりを作っていくことにも引き続き尽力してもらえたらと思います。

(副委員長)

CSWの活動について年数回報告を受けています。CSWに集まってきた色々な他で解決できない相談を、CSWが抱えている場面が割とあると感じています。CSW一人が解決することではなく、ネットワークを組み、一緒に考えてくれる層を厚くできるかが大事なことです。簡単に解決しないこともあり、局面があるまではずっと伴走し続ける仲間たちを地域に作っていくということだと思います。専門職とパッと集まれるケース会議の場や、住民の人と考える集まりとか、仕組みがもっとできると良いと思います。重点事業として挙げられている、福祉カレッジ、まちづくり委員会、CSWは良いですが、重点目標がなく、事業を行うことが目的になってしまうのではないかな。その手前に重点目標として制度の狭間を受け止めるネットワークを作るとか、専門職との連携、住民と考える連携を入れて、そこを重点的に行うということを謳いつつ、事業をやっているだけでいいのではないのでしょうか。もう一つ、見通しの柱立てが出て安心感がありますが、もっと委員の皆さんの、日頃できれば良いと思っている声があり、このことを今回の計画でやっつけよう、というものが出るといいと思います。この柱立てにとらわれずに、日ごろ気になっていることをどんどん出せるような話の場を次回などに持っていて、うまくまとまらなくても、社協が音頭を取って、住民とやっつけようのだという、皆が向かっていける共感できるような目標の出し方ができるといいと思います。

(委員)

当事者の声、家族の声、それらを取り巻く関係者の声が必要だと思います。とくに、学校教育における、ソーシャルワーカー、ケースワーカーの活動する場所や受け入れる体制を充実していただけたらと思います。アウトリーチの充実ももっと進めて、内容を深めないで広まらないのではないかと思いますので、これ

からも検討されるべきだと思います。

(委員)

調布社協でも今年度と来年度に地域福祉活動計画の策定に取り掛かっています。なかなかきれいにうまくまとまりません。コンサルタントを入れずに自分たちで作っています。8圏域で、考える仲間づくりとして、民生委員、企業、社会福祉法人の専門職等の会議と、全域での策定委員会と、全部で9つの会議で進めている段階です。仲間を作っていくことを目標に進めているので不安定な状態ではありますが、仲間づくりは大事なのだと思いました。一緒に考えていく人をより多く作っていくことは大事なので、そのようなことが入ってくるといいと感じました。

(委員)

C SWは何でもできる者ではないとの話がありましたが、繋ぎ先が課題です。そのためにも重層的支援体制整備事業を開始していて、フォーマルな繋ぎ先として市の福祉相談課が多機関協働ということで、繋ぎ先のないもの、制度の狭間の問題等について調整する役割を担っています。市役所内でもマンパワーが足りないなかで、「つなぐシート」というものを活用して、それをLoGoフォームを使い、オンラインで繋げるような仕組みづくりを始めています。こうした仕組みも、社協と調整して活用していければと思います。市はフォーマルで繋ぐ仕組みづくりであり、社協はインフォーマルな部分での繋ぎ先やネットワークづくりをやってもらえれば、さらに重層的な支援体制が出来ていくのではないかと思います。

(委員)

基本的な方向性や目的は前回の踏襲でもよいと思いますが、新しい計画にあたり、ポストコロナや持続可能な取組みをどうするのかということが大切な視点になると思います。先ほどの報告の中でも、コロナのために活動ができずに評価がCになっている事業も多々あったと思います。そうした場面でも持続的に活動していくにはどうしたらいいかということや、C SWについては抱えすぎてしまっては活動が広がっていかないということがありますので、そのような視点を新しい計画に反映してもらえればと思います。

(委員長)

他にご意見やご質問はありますか。なければ、ただ今の内容について承認いただけるようであれば挙手をお願いします。

(委員)

<全員挙手>

(委員長)

挙手全員で承認されました

(7) その他

(委員長)

事務局からありますか。

(事務局)

次回の本委員会は5月の予定です。候補日は10日、17日、24日、25日、26日のそれぞれ午後を予定しています。具体的な日時は、第3回と第4回の日程調整とあわせて行いたいと思います。その他臨時会議がある場合は調整をさせていただきます。

(委員長)

委員の皆さんから何かありますか。特になければ、本日の議事はすべて終了しましたので、これで委員会を終了します。